
Nobody Is Perfect

ヒムロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

N o b o d y I s P e r f e c t

【Nコード】

N 6 4 7 4 H

【作者名】

ヒムロ

【あらすじ】

たった一人の悲しい世界。僕は、それでも生きていく。その瞳に確かな強さを持ち続けて。

だれもない。

僕はこの世界で生きているたった一人の人間だった。

僕がいつ生まれ、ここが何処なのかさえも分からない。

本当に僕が生きているのかさえも、分からない。

これは誰かが見ている夢の中なんじゃないか、そう思ってしまったことがある。

だが、それもいいだろう。

だれもそれを証明することは出来ないし、しようもしないのだから。

だって、この世界には僕しかないんだ。

僕がこの考えを曲げない限り、僕の存在は絶対なのだ。

たまに、孤独を感じることがある。

寂しいと、退屈だと。

それはむかし、僕以外の人間、もしくは別のモノが生きていたということになる。

そのときの僕は、どんな気持ちだったのだろうか。

楽しかった？

嬉しかった？

幸せだった？

それとも、今と同じで寂しかった？

そんなことに思考が回ったとき、僕の頬に一筋の涙が流れた。たまにあるんだ。ごくたまに。

微量の液体は頬を通り、顎の先から乾いた地面に滴った。

それは一瞬で地に吸い込まれ、存在をなくす。

まるで最初から存在しなかったかのように。

いつものことだ。

でも、涙は雄弁だった。

涙がこぼれたとき。

それは、その思考が正しいものだった、ということなのだ。

だから、僕は寂しい気持ちを抱えながら、他のモノの中に混じっていったのだろう。

だから、他の生き物なんて、居ても居なくても一緒なんだ。どうせ、涙は流れてくるのだから。

僕は歩き出した。

空が綺麗だったから。

綺麗な空と雲を見ていれば、涙も乾く。

暑い太陽の光も気にならない。

滲む汗も拭わずに、だが泣き止むのを待った。

足を動かし、空を見上げて。

いつか、僕もあの空を飛んでみたい。そう思う。

鳥のように。

優雅に。

自由に。

鳥なんて、見たこともないのだけれど。

手を伸ばした。

雲の上に向かって。

届くはずのない希望に寄せて。

たったひとりで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6474h/>

Nobody Is Perfect

2011年1月16日06時32分発行